

週刊ブロック通信

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代表)
編集発行人 黒澤隆寿 購読料1カ年39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450

コンクリート
製品の業界紙
週刊ブロック通信

購読、広告の
お申し込みは

TEL 03-3431-2811
FAX 03-3578-3450
kjp@msj.biglobe.ne.jp

(株)公共事業通信社

4月の着住宅5・8%増

8カ月連続前年プラス

国土交通省が発表した4月の新設住宅着工戸数は7万7894戸

(前年同月比5・8%増)と、8カ月連続で前年実績を上回った。4月としてはリーマンショックの影響で住宅市場が冷え込む前の08年同月以来、5年ぶりの高水準。景気回復期待で個人の住宅購入意欲が回復していることや住宅ローン金利の反転上昇、消費増税前の駆け込み需要が増えている面もある。国土交通省は今後の住宅需要動向について「建設労働者の

需給状況や住宅ローン金利の動向など引き続き慎重に見極める必要がある」としている。季節調整後の年率換算値は93万9000戸で、前月から3万5000戸(3・9%)増加した。

住宅着工の内訳を見ると、分譲住宅は2万1388戸(同6・9%減)で2カ月連続の減少。このうち戸建て住宅が1万559戸(同15・4%増)で8カ月連続の増加

マンションは1万718戸(同22・0%減)で2カ月連続の減少

となった。また持ち家は2万8357戸(同17・5%増)で8カ月連続の増加。貸家は2万7842戸(同7・8%増)で2カ月連続の増加となった。

地域別では北海道3347戸(同1・4%増)、東北5800戸(同21・8%増)、関東3万2538戸(同6・0%増)、北陸2750戸(同17・3%増)、中部8617戸(同12・2%増)、近畿1万626戸(同17・8%減)、中国3339戸(同12・6%増)、四国1678戸(同24・9%増)、九州8158戸(同24・2%増)、沖縄1041戸(同2・0%減)。

県別では増加35に対して減少12。東北の被災3県は、岩手653戸(同18・5%減)、宮城2523戸(同43・1%増)、福島1144戸(同17・7%増)だった。

また4月の全建築物床着工面積は1245万㎡(前年同月比13・7%増)と、8カ月連続で増加した。このうち民間は1154万㎡(同13・1%増)で8カ月連続の増加。工場・商業施設など民間非居住用は428万㎡(同26・5%増)で3カ月連続の増加。内訳は

事務所42万㎡(同10・9%減)、店舗93万㎡(同135・6%増)、工場86万㎡(31・3%増)、倉庫

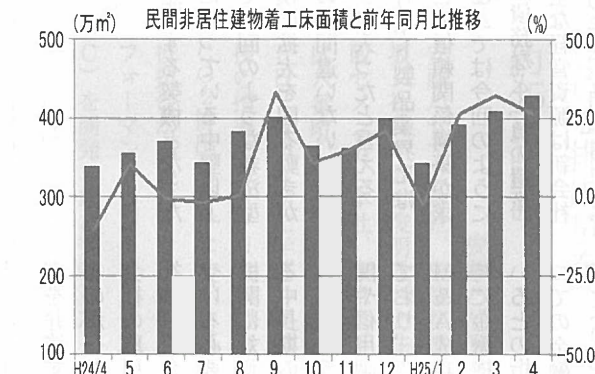
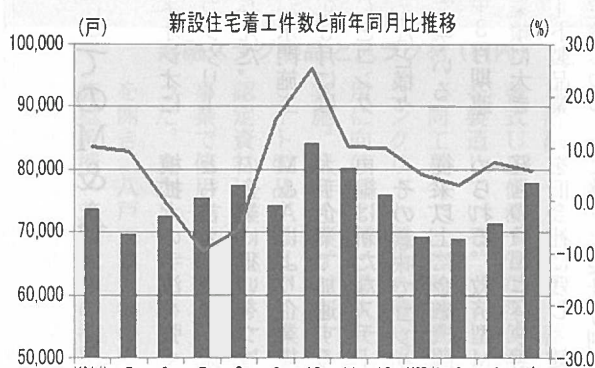
48万㎡(同10・9%減)。

省庁横断でインフラ老朽化対策

副大臣会議創設

国土交通省は11日に開催した社会資本の老朽化対策会議で、9府省庁の副大臣級で構成するインフラ老朽化対策会議を今月下旬に創設する方針を明らかにした。インフラの老朽化対策を省庁横断で推進するのが狙い。副大臣級会議の下には各府省庁の課長レベルの担当者連絡会も設置する。これにより膨大な老朽インフラに政府が一体となって対策を講じる体制が整う。

会議は国土交通省の他、復興庁・内閣府・総務省・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省の副大臣と警察庁交通局長で構成。事務局は3月に設立した国土交通省・社会資本老朽化対策推進室(室長・佐藤直良事務次官)が担当する。老朽化対策に関する新技術や新たな取り組みの成果を政府全体に展開するため会議を定期的に開催。情報の共有と連携を図り各府省庁の老朽化対策の進捗よく状況を会議で共有すると同時に、維持管理の新技術に関する全ての情報を社会資本老朽化対策室に一元化する。同室では副大臣級会議などと連携し、新技術の開発・活用の促進をマネジメントしていく考え。



EE東北'13開催

最多の1万人超が来場



EE東北2013が6月5・6日の両日、宮城県仙台市の夢メッセみやぎで開催された。今年で23回目の開催となる同展には「復興へ、今こそ活かそう新技術」をテーマに289社/団体が過去最多の677技術を出展した。会場には自治体関係者や設計コンサルタント・設計者の他、未来の建設業界を担う学生も多く訪れて、来場者は過去最高となった昨年の9800人を上回り、1万2000人を数えた。

677技術が出展

開催テーマの「復興へ、今こそ活かそう新技術」を受けて、会場の3分の1を復旧・復興関連の技術が占めた。屋内展示は出展希望が殺到したため、パネルや模型・ビデオによる展示が多く、実物展示は屋外展示場が中心となった。このうちコンクリート製品関係では、インフラテック、オカグレ

ス協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、前田製管、丸栄コンクリート工業、丸万コンクリート、横江コンクリートなどが出展した。

●各社が工夫を凝らし出展

【インフラテック】津波避難用階段工・エールプレート、防草工・GSボードライト、分割カルバートのIDボックスカルバートなどの模型を展示。

エールプレートは階段蹴上げ部に特化したGRC製の残存型枠。合板型枠を使用した従来工法は1段ずつ施工するため手間と時間が掛かっていたが、エールプレートは脱型作業が不要で先行して型組みし、コンクリートを一度に打設できるため作業性に優れ大幅な工期短縮が図れる。

【オカグレイト】屋外展示場にセシウム回収ボックスのほか、25トン対応SUS圧接グレーチング、ハイグリッパングレーチングの実物を展示。

セシウム回収ボックスは、カゴ状の蓋付ボックスに繊維状のセシウム吸着材を入れ、側溝や集水鉢に設置して雨水に溶出した放射性セシウムを吸着する。

【カワグレ】ユニバーサルデザイングレーチング(UDG)を出展。UDGは三角目(トライアングルピッチ)を採用。車椅子やベビ

ーカーなど、車輪がどの角度から進入しても車輪が落ち込むことなく安全に走行できる。会場に用意した車椅子で、来場者は車輪が落ち込まない快適走行を体験した。

【技研】スーパーボックスカルバート工法とスーパーウォール工法を出展。スーパーボックスカルバート工法は、ヘッドスラブとサイドウォールを分割構造にして幅13mまでの超大型断面のカルバート構造物を構築できる。各部材をPRC構造(鉄筋+プレストレスト)とし、部材の連結もPC緊張で行うので一体性に優れ強固な構造体を構築できる。

【ゴトウコンクリート】初出展となる同社は、屋外展示場に既設側溝リニューアル工法・ディンプルエフ、都市型側溝、トンネル側溝、トンネルウォール(監視員通路壁等)の実物展示を行った。

会場では、ディンプルエフの表面に施された滑り止め・ファインステップ加工の効果を体感してもらうため、製品表面を濡れた状態で展示。滑り止め効果を来場者にPRした。

【ジオスター】プレキャスト防潮堤、プレキャスト樋門、カルバート製品のビックボックスなどをパネル展示。プレキャスト防潮堤は、鋼管杭基礎とプレキャスト部材を組合わせた混構造の防潮堤工法。

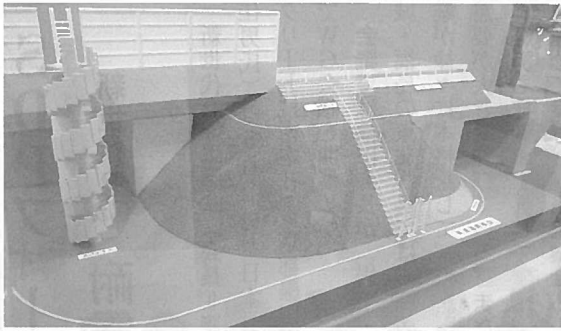
現場打ちと比較して工期を3分の1に短縮できる。工場生産のプレキャスト部材を現場で組立てるので、品質と耐久性に優れている。

【斜角門形カルバート工法研究会】斜角門形カルバート工法を模型とパネルで説明。同工法は幅員10m程度までの短スパン橋梁の架け替えや拡幅に最適なプレキャスト工法。水路と道路の交差角を60〜90度まで現場に応じて自由に設定できるので、道路線形に合わせて施工できる。

【昭和コンクリート工業/ヤマウ】大型分割アーチカルバート・ループアーチをはじめカルバート製品のスーパーワイドボックス、PCaウイングウォールを模型とパネルで展示。

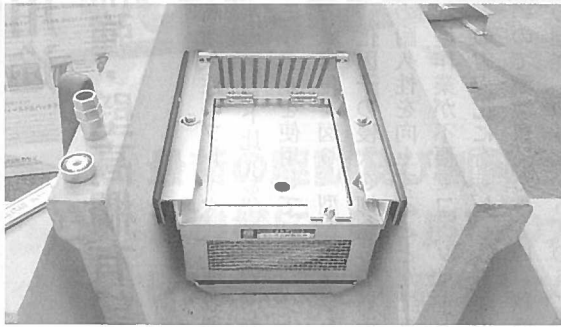
ループアーチは2分割プレキャスト部材と現場打ちコンクリートを併用した大断面アーチカルバート工法で、工期短縮と省人化が可能。連結部にはループ継手及び機械式継手と現場打ちコンクリートによる剛結合を採用した。

【ダイクレ】エコ細目グレーチング、獣害防止のテキサスグレーチング、グレーチング用ソーラーLEDの実物を展示。エコ細目グレーチングは主部材の一部を細径の角鋼に置き換えて軽量化を図ったグレーチング。従来の細目グレーチングと比較して5〜20%の軽量化を実現した。



インフラテックのエアプレート

会場では従来品とエコ細目グレーチングの両方を展示。来場者が重さの違いを体感した。
【W2R工法協会】W2R工法は既設側溝の老朽化部分をW2Rカッターで切断し、側溝と蓋をリニューアルする技術。
会場にW2Rカッターの実物を展示すると共に、施工の様子をビデオで流し、来場者に同工法の優位性をPRした。
【東栄コンクリート工業】太陽光モジュール架台基礎・ソーラーキーパーをパネル展示。また高輝度蓄光式屋外案内板・アルシオールサインプレート、道路トンネルLED照明の実物を展示した。
東北地区でも太陽光発電に注目が集まっており、ソーラーキーパーの需要は順調に伸びているとい



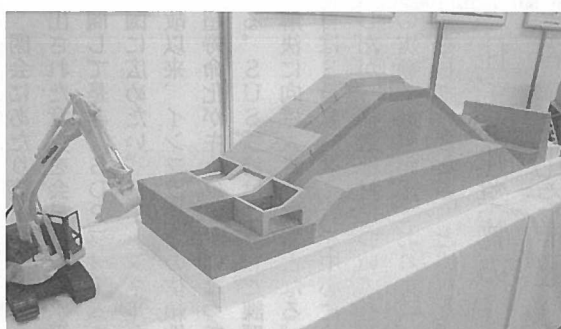
オカグレートのセシウム回収ボックス

う。
【ネプラス工法研究会】ネプラス工法をパネルやビデオで展示。同工法は老朽化した側溝上部のみ自社開発の横切りカッターで切断し、上部補強金具を設置する側溝リニューアル工法。道路横断側溝や歩車道乗入れ部など通行量が多い箇所でも短工期で即日交通開放できる。
【箱型擁壁協会】箱型擁壁の模型とパネルを展示。
箱型擁壁は箱状のプレキャスト製品を階段状に積み上げる擁壁工法。自立型の箱体を積上げるため勾配設定が容易で、コーナー部や曲線施工も反転組合わせで対応できる。東日本大震災でも高い耐震性能を実証した。土木研究センターの建設技術審査証明書済。



坂内セメント工業所/イビコンの自在R

【坂内セメント工業所/イビコン】屋外展示場に自在R連続基礎、排水ドレン金具、防草ブロックなどの実物を展示。
自在R連続基礎はプレキャスト製のガードレール基礎ブロック。ブロック同士をチェーン状に組むので、直線・曲線選ばずに自在に設置できる。基礎全体で車両衝突のエネルギーを吸収するので衝突車両へのダメージを軽減できる。
【プレキャスト・ガードフェンス協会】単スロープ型・フロリダ型・壁高欄型などの断面模型を展示。会場に設置されたビデオでは、単スロープ型とフロリダ型への実車衝突実験の様子を放映し安全性をPRした。
【プレストレスト・コンクリート建設業協会】プレストレスト・コ



丸栄コンクリート工業のベースブロック模型

ンクリート橋の模型を展示。また片持架設工法や架設桁工法などの施工事例をパネル別に展示した。
会場では5月に創刊したプレス・コンクリート技術の広報誌「PCプレス」を来場者に配布した。
【前田製管】屋外展示場に大地震対応型L型擁壁・MLウォールIV型、ダクト床版、壁付スリット側溝などの実物を展示。
MLウォールは、壁高750mm、3000mm対応の大臣認定L型擁壁。軽量で施工性と経済性に優れている。会場では周囲を囲むようにMLウォールIV型を展示したブースが来場者の注目を集めた。
【丸栄コンクリート工業】海岸堤防基礎工・ベースブロック、大型矢板護岸・笠コンウォール、プレ

キャストパラペットなどをパネルと模型で展示。東日本大震災では津波が堤防を越流し、陸側の堤防法尻を洗掘して堤防が破堤した。
ベースブロックは法尻の洗掘防止と基礎工のプレキャスト化を目指して開発した。仙台南部海岸堤防の復興工事にも採用され工期短縮に寄与している。
【丸万コンクリート】導水溝付組立縁石・フレキシブルブロックの実物を展示した他、逆台形擁壁・バランズ工法擁壁、自由勾配スリット側溝・マルチスリット側溝、導水溝付組立縁石をパネル・ビデオで展示。
バランズ工法は底版幅より上辺幅の方が広い逆台形形の擁壁工法。基礎の掘削幅が小さいので工期短縮とコストダウンが図れる。
【横江コンクリート】屋外展示場にプレキャスト塀・スマートウォール、パブリックトイレ、防災BOXなどの実物を展示。
スマートウォールは、ドイツ・RECKLIの樹脂面版技術・フォームライナーによる高い意匠性と多様なデザイン性を有するL型擁壁タイプのプレキャスト塀。基礎から壁体までを一体化して、地震に強く耐久性にも優れている。表面パターンを選べるので好みに応じた外構を作り出せる。会場にはガラスブロックやスリットを入れた製品を参考出品した。